

東日本大震災から2年... 日米ダイアログ

『人間復興』に向けて

東日本大震災から間もなく2年になりますが、被災地の多くは、復興とはかけ離れた状況にあります。そもそも災害からの復興には、道路や建物などのハードの再建だけではなく、人々の営みや地域社会における絆を再生させる『人間復興』が必要です。こうした東日本大震災後の復興過程における教訓は、2005年にアメリカのメキシコ湾岸を襲った、ハリケーン・カトリーナから4年後に行われた調査研究からも明らかになっています。この調査研究に携わった研究者をメインゲストに招き、以下のように2日間にわたるプログラムを、大阪市立大学梅田サテライト(下の地図参照)で開催します。いずれも参加は無料、予約は不要です。是非、ご参加下さい。なお、このプログラムは、大阪府の新しい公共支援事業の補助金と大阪市立大学大学院創造都市研究科などの協力で実施されます。

★日米NGOダイアログ★ NGO関係者向け

『人間復興』とNGOの役割
カトリーナ台風と東日本大震災の経験から

日時
3月7日(木)午後3時～6時
日本側ゲスト
村井雅清
被災地NGO協働センター
清家弘久
日本国際飢餓対策機構

★シンポジウム★ 一般向け

災害時のNPO/NGOの役割
『人間復興』と『強靱な地域社会』の視点から

日時
3月7日(木)午後6時半～9時
日本側ゲスト
村井雅清
被災地NGO協働センター
モデレーター
柏木宏

★スタディ・セッション★ 研究者向け

被災者心の回復
東日本大震災とカトリーナの経験から

日時
3月8日(金)午後4時～6時半
コメンテーター
弘田洋二
大阪市立大学大学院
李千秋
日本福祉文化研究センター

March 7 & 8, 2013

メインゲスト：アメリカのランド研究所の主任研究員 *Ms Anita Chandra*

アメリカの首都ワシントンに本部を置く世界的なシンクタンク、ランド研究所の調査部行動政策科学部部長・上級政策研究員、ならびにパーディー・ランド大学大学院の教授。公衆衛生や青少年問題、コミュニティベースの参加型調査などを専門に調査研究に従事している。2005年にアメリカのメキシコ湾岸地域を襲ったカトリーナ台風の4年後、被災地で支援活動を行ってきた、40余りのNGOや政府機関への聞き取り調査を実施。大災害からの復興には建物などのハードの回復に目が向けられがちなかで、住民の生活レベルでの回復、ヒューマンリカバリー(人間復興)が重要だとしたうえで、これをNGOが大きく担っているにもかかわらず、連邦危機管理局(FEMA)などの政府はその意義を十分に理解せず、財政的な支援も不十分として、改善の必要性を訴える論文を発表、注目を集めた。



〒530-0001
大阪市北区梅田
1-2-2-600
大阪市立大学
梅田サテライト
柏木宏研究室気付

E-mail
Kashiwagi@gssc.osaka-
cu.ac.jp

がんばっ
気仙沼
応援団

共生社会東日本地震被災者救援・支援の
会とは？

3月11日の東日本大震災発生直後、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野の教員・院生・修士生を中心に設立された任意団体です。宮城県気仙沼周辺地域の被災者への救援と地域の復興活動を支援するために、大阪でNPO、行政、企業と連携しながら活動を進めています。